

隠れた名曲から辿る音楽史

ピアノ科ベーシックコース主教本『ピアノ・レパートリー1・2』で取り上げている作曲家の作品や生涯、当時の時代背景などをとおして、古今東西の音楽の歴史を紐解いていきます。



『ピアノ・レパートリー 1』P.10

かわいい子供 (愛しいラズール)

作曲：F.クープラン

クープランが20年かけてまとめた代表作『クラヴサン曲集』の1曲です。この曲集は“オルドル”と名付けられた27の組曲を全4巻に収めたものですが、オルドルを構成しているのは230以上もの繊細優美な小品です。

各曲には「恋のうぐいす」や「葦」、「小さな風車」、「編み物をする女たち」など、曲の情景を思い起こさせる描写的なタイトルが付けられています。

曲集の中でも人気の高い「かわいい子供(愛しいラズール)」は、軽やかな装飾音が特徴的で、フランスらしい洗練されたオシャレなセンスがあふれる作品です。

フランソワ・クープラン

(1668年-1733年)

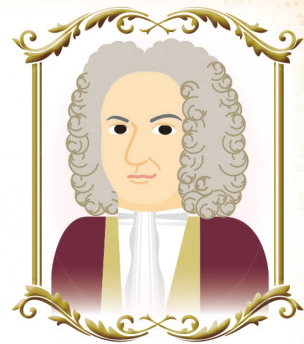
バロック時代のフランスを代表する作曲家、クラヴサン(チェンバロ)奏者、オルガン奏者です。

代々音楽家を輩出しているクープラン一族に生まれ、幼少時から音楽教育を受けて育ちます。10代で教会オルガニストとして活動を始め、25歳でフランス国王ルイ14世の住むヴェルサイユ宮殿の礼拝堂のオルガニストに就任。宮廷で鍵盤楽器奏者、音楽教師、室内楽曲や宗教曲の作曲家として幅広く活躍しました。

膨大な数の小品からなる『クラヴサン曲集』や、当時画期的だった親指を使った運指(*)の提案をはじめとした鍵盤楽器の演奏法、装飾音などに関する著書『クラヴサン奏法』は、同年代のJ.S.バッハのほか、R.シュトラウスやM.ラヴェルなど後世の作曲家にも多大な影響を与えました。

*……それまで鍵盤楽器を演奏する際は、親指を使わないのが常識とされていました。

代表作・著作 『クラヴサン曲集』/『2つのオルガン・ミサ』/トリオ・ソナタ『コレリ賛』
『クラヴサン奏法 L'Art de toucher le clavecin』(1717年出版)



クープランくんに関く

バロック時代のフランス音楽 ~クラヴサン音楽編~



イタリアを中心に、ヨーロッパ各国でさまざまな器楽が発展したバロック時代。ポクの生まれ育ったフランスは、他国の影響を受けながらも、華やかな宮廷を中心に独自の音楽文化を作り上げていったよ。その中でも、特に独特の魅力あふれるジャンルとして確立したのが『クラヴサン音楽』だ。

バロック時代初期、当時最高のクラヴサン奏者と言われたJ.C.de.シャンボニエールは、それまで主流だったリュート音楽の様式をクラヴサンに転用し、フランス独自のクラヴサン音楽の基礎を作ったんだ。その後を引き継いだのは、彼の弟子のJ=H.ダングルベールとL.クープラン。ポクのおじさんでもあるL.クープランは、17世紀後半のクラヴサン音楽の



◀リュート
16~17世紀の
ヨーロッパで人気を
集めた弦楽器

特徴となる「プレリュード・ノン・ムジュレ」(拍子のないプレリュード)の様式を初めて取り入れたりするなど、クラヴサン音楽をさらに発展させていったよ。そしてポクが宮廷音楽家となり、『クラヴサン曲集』や『クラヴサン奏法』を出版した頃、クラヴサン音楽は最高潮を迎えたんだ。

ところが18世紀初頭にフォルテピアノ(現在のピアノの原型)が登場。タッチで強弱を変えられ、より豊かな表現ができることから、その進化とともに作曲家たちはピアノ曲を書くようになって、クラヴサンは衰退してしまう。そして20世紀に“古楽器”として再び光が当たるまで、表舞台から姿を消してしまうんだ。



◀クラヴサン

▶フォルテピアノ
(クラヴィチェンバロ・
コル・ピアノ・エ・フォルテ)

ピアノ・レパートリー 1・2

~時代様式、スタイルを学ぶ~

「ピアノ・スケッチ」を修了程度のお子さまから大人の初心者の方までを対象に、著名作曲家の作品を中心として、四期(バロック、古典、ロマン、近現代)それぞれの時代様式の特徴がよく表われている楽曲を集めたテキストです。



ピアノ・レパートリー 1

■定価：1,000円+税
■品番：T31-114
■対応級：
ピアノ科ベーシックコース
5~2級
■収録曲：全15曲



ピアノ・レパートリー 2

■定価：1,000円+税
■品番：T31-115
■対応級：
ピアノ科ベーシックコース
3~2級
■収録曲：全12曲

対応SMFミュージックデータ [1巻：6曲セット/2巻：4曲セット] 定価：各800円+税
『ローランド ネットワーク サービス』会員専用ページにてダウンロード購入いただけます。